

④-1 家庭教育支援体制整備 福祉と教育の協働の子育て支援

1、背景

平成28年度「子どもの生活に関する実態調査」を大阪府及び能勢町を含む府内13市町で共同実施した結果、家庭が抱える様々な課題と地域における「つながり」の希薄化等による家庭教育力の低下が明らかとなった。(大阪府立大学との連携開始)

2、目的

・切れ目なくつなぐ ・教育と福祉の連携 ・地域とのつながり

3、めざす支援方策

- ・子どもの生活習慣、学習習慣に対する支援
- ・子どもに対する相談体制、居場所づくりの強化
- ・保護者が子どもに対して関心を高めるための支援
- ・保護者に対する相談体制の整備

4、具体的な取組

子どもの未来応援センター

家庭教育支援チーム「ほっこり」が誕生。

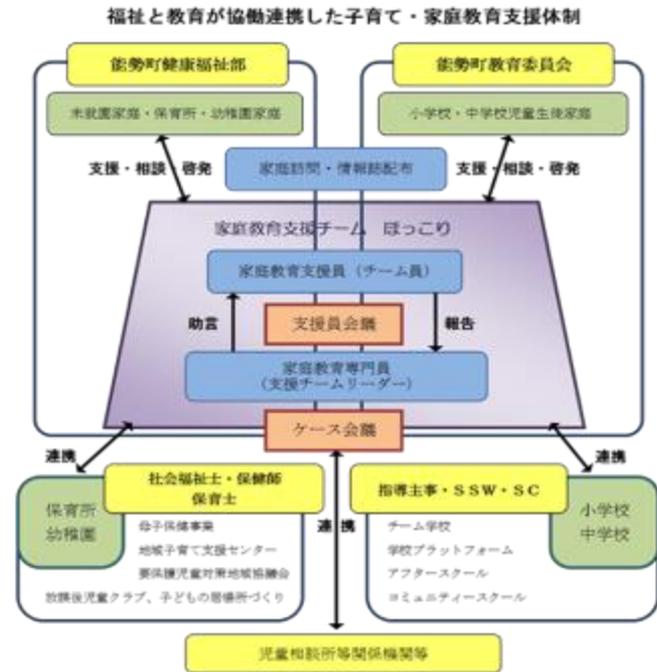
(訪問型家庭教育支援事業について)

実施主体：能勢町・能勢町教育委員会

訪問対象：年長児(5歳児)及び小学校1～6年生

活動内容：

- ①家庭教育支援員が全戸家庭訪問(学期に1回)
- ②ほっこり週間(学期に1回、1週間学校を訪問)
- ③親学習講演会(子育て応援ぶろぐらむ)の実施



④-2 学校版スクリーニング会議

福祉部×町教委×大阪府立大学

学校版スクリーニング会議



年3回開催

学校版スクリーニング 校内チーム会議とは

スクリーニング会議において「校内チーム会議」は、以下がポイントです。
 ① 学校版スクリーニングシート（P2）- 児童マップ（P3）
 ② 児童生活支援センター（P4）- 児童生活支援センター（P5）
 ③ 児童生活支援センター（P6）- 児童生活支援センター（P7）

A 教職員の関与

- 学年主任
- 担任
- 保健指導
- 等のアプローチ



B 地域資源の活用

- 学習支援
- 居場所
- 子ども食堂
- 地域人材
- 教育支援
- 等の活用

スクールサポーターの方に協力してもらえませんか。

C 専門機関の活用

- 児童相談所
- 児童生活相談室
- 少年サポートセンター
- 教育センター
- 福祉制度
- 等の活用

ケース会議

児童生徒理解・早期対応・支援の見える化のための YO-SS(大阪府大山野式スクリーニングシート)

このシートは、統計分析等の学術的研究に基づいて構成されています。 ©大阪府立大学山野剛子研究室
 印刷の際は、Excel右下の改ページプレビューをご利用ください。

【 年 月 日実施】(月分)

(印刷がないシート記入時改ページボタン)

1学期 現状

量は学校独自項目(その他(費い列)に複数項目の追加可)、グレーは入力不要項目 **← 気になる(週1回程度) → 1 特に気になる(週3回以上) → 2 →**

学年	性別	氏名	学校										特別支援	養護	事務	管理職・生活	地域担当	調査	合計																														
			学校適応・問題行動		学習	家庭状況	発達	健康	経済	福祉	地域からの情報	調査																																					
			②欠席日数(年30日以上は長期欠席・不登校)	③不登校期間あり(自働入力)																																													
1年	男	①新入	④ケガ	⑤学力	⑥持たず	⑦その他	⑧成長	⑨その他	⑩その他	⑪その他	⑫その他	⑬その他	⑭その他	⑮その他	⑯その他	⑰その他	⑱その他	⑲その他	⑳その他	㉑その他	㉒その他	㉓その他	㉔その他	㉕その他	㉖その他	㉗その他	㉘その他	㉙その他	㉚その他	㉛その他	㉜その他	㉝その他	㉞その他	㉟その他	㊱その他	㊲その他	㊳その他	㊴その他	㊵その他	㊶その他	㊷その他	㊸その他	㊹その他	㊺その他	㊻その他	㊼その他	㊽その他	㊾その他	㊿その他

成果

- 小学1年生から中学3年生までの児童生徒の様子把握
- 情報の伝達・集約・共有 ⇒生活指導体制の見直しへ
- 課題の共有 ⇒不登校への早期対応
- 家庭環境等の情報共有し、より深い子ども理解
- 子どもをたくさんの目、たくさんの職種で見守る意識

※日常的に健康福祉部職員(社会福祉士・保健師等)が学校内に入り教職員と一緒に会議をする

※福祉分野と教育分野が協働して就学前の情報や家庭での困り感を共有でき、必要な支援の提供が即座にできる。

④-3 子どもの居場所づくり事業

教育委員会×健康福祉部×ボランティア

【事業の趣旨】

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、子どもや家庭教育を支援する取組として、学校でもない、家庭でもない、いわゆる**第三の居場所**を提供する。

【学校プラットフォーム型】（主体：能勢町・能勢町教育委員会）

- 長期休暇中に小学生を対象に、学校施設を活用し、体験プログラム、学習会、昼食の提供を行う。
- 登下校はスクールバスを臨時運行。
- スタッフは教育委員会・福祉課職員 中心に



【児童の参加状況と就学援助参加率】

全体	H29	42人/日	12%
	H30	101人/日	31.4%
	R1	111人/日	37.3%
就援	H29	6人/52人	11.5%
	H30	20人/55人	36.4%
	R1	25人/61人	40.9%

（昨年度の実績）

R1年度 夏休み元気ひろば（7日間）
参加者：777人（H30年度：7日間・710人）

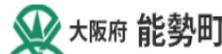
R1年度 夏休み学習会（3日間）
参加者：167人（H30年度：3日間・166人）

R1年度 冬休み元気ひろば（2日間）
参加者：169人（H30年度：2日間・175人）

⑤ふるさと科「グローバル能勢」

- ・学校博物館創設 旧学校備品活用
- ・G能勢教職員研修会継続 (計14回開催)

おおさかのてっぺん



NOSE TOWN OFFICIAL WEB SITE

▶ 本文△ 文字サイズ 標準 拡大 背景色変更 黒 青 白 ▶ G

キーワードで探す ENHANCED BY Google

イベントをさがす ▶ 組織からさがす ▶

暮らしの情報

観光情報

産業・ビジネス

現在の位置 ホーム > 場面別で探す > 能勢ささゆり学園に学校博物館が完成しました！

能勢ささゆり学園に学校博物館が完成しました！

能勢ささゆり学園メモリアルホールに新しく学校博物館が完成しました。

能勢の学校教育では昔から、子どもたちにできるだけ多くの「ほんもの」を手にとって観察し、学んでもらうために、たくさんの鉱石、動物や昆虫の標本が集められ、教材として大切に使われてきました。

今回、140年の歴史と伝統ある能勢町の旧6小学校（歌垣小・東郷小・田尻小・久佐々小・岐尼小・天王小）60年の歴史ある旧2中学校（東中・西中）、旧大阪府立青少年野外活動センターに保管されていた多くの博物標本を見ることができます。その中には当時の小・中学校生と先生方が学校のまわりで集めた標本など、地域の自然のうつりかわりを知ることができる貴重なものもあります。

標本のために設置した棚類は、旧6小学校と旧2中学校にあったものを補修し、旧校舎の当時に懐かしむことができる展示となるようこころがけました。

また、博物館には珍しい昆虫関係の図書も展示しており、子どもたちが座ったり、寝転んだりして、観察や読書ができるスペースを設けています。



あおばずく



ギフチョウ



ささゆり

